様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：６２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００９７

研究課題名（和文）日本仏教と東南アジア仏教との比較研究-政治と権力の視点を中心として

研究課題名（英文）A Comparative Study of Japanese Buddhism and East Asian Buddhism; with focus on both Politics and State Power

研究代表者
松尾　恒一（Matsuo, Koichi）

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：５０２８６６７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本課題は、東南アジアを中心とする上座部仏教圏と大乗仏教圏である日本との比較による、国家と宗教との関係性について、文化人類学、民俗学、歴史学の専門研究者との協業により考究することを目的とする共同研究である。
　東南アジア・日本の仏教について、文献史料による歴史的変遷と、現況の調査により、現代に伝承されている社会・文化・政治的な意義を追及した。各年に三回程度の研究会を実施し、日本史学・民俗学・文化人類学分野よりゲストスピーカーを招聘して議論を深めた。
　国内は、仏教伝来の地である北九州、及び畿内の、海外はタイ、マレーシアの調査を実施し、大きな成果を挙げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　古代に国家と結びついた権門寺院仏教は、対外的、国内のいずれにしても国難の危機の克服において、古代～中世に、重要な役割を果たし続けてきた。本共同研究は、こうした特質を有する日本の宗教的世界について、特に東南アジア地域の、戒律の厳しい上座部仏教の世界に対象を拡大して比較研究を行う、挑戦的な試みである。
　従来の仏教研究では、両者、日本と東南アジアの仏教とは、宗教・教義にのみ関心が注がれて対置されて、異なる宗教であるという認識にとどまっていた。そのため、宗教の社会文脈における役割を解明しようとした研究はほとんどなかった。そうしたこ点らも、宗教を受容する社会基盤に注目する本申請課題は画期的である。

研究成果の概要（英文）：　This project is a joint research project with researchers specializing in cultural anthropology, folklore, and history to examine the relationship between the state and religion by comparing the Theravada Buddhist sphere, mainly in Southeast Asia, with Japan, a Mahayana Buddhist sphere.
　The research pursued the social, cultural, and political significance of the transmission of Buddhism in Southeast Asia and Japan in the modern era by examining the historical evolution of Buddhism in Southeast Asia and Japan, using archival documents and research on the current situation. We held about three study groups each year and invited guest speakers from the fields of Japanese history, folklore, and cultural anthropology to deepen discussions.
　In Japan, we conducted research in Kitakyushu and the Kyoto Nara region, where Buddhism was introduced to Japan, and overseas in Thailand and Malaysia, with significant results.

研究分野：宗教学

キーワード：東南アジア仏教　日本仏教　国家統治と寺院　神仏習合と儀礼　東南、東アジアにおける仏教、民間信仰の伝承　日本における仏教、民間信仰の伝承　上座部仏 教圏と大乗仏教圏の宗教と社会の比較研究　寺院組織と地域統治

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本課題は、東南アジアを中心とする上座部仏教圏と大乗仏教圏である日本との比較による、国家と宗教との関係性を文化人類学、民俗学、歴史学の専門研究者との協業により考究することを目的とする。

本課題は、単なる宗教、宗教史にとどまらず、国家統治や地域社会における役割の解明を目指す共同研究であるが、特に前近代の地域社会における農業、漁業、商・工業等、生業の基盤となる空間における寺院の役割の解明を目指すことを大きな目標とした。

２．研究の目的

研究代表者・分担者は、本科研以前に下記のような成果をあげている。

① 日本仏教の基盤には古代～中世において広く社会に浸透した顕密仏教があり、神祇信仰・祭祀とも結びついた村落社会の原型ができた。

② このような形態は仏教がヒンドゥーの神々などと結び付き在地社会で現世利益的機能を果たす東南アジアの上座部仏教圏との類似性が見られる。

３．研究方法

本成果を踏まえて、顕教・密教を中心とする日本仏教と上座部仏教圏とは有益な比較対象たるべきことが認識され、さらなる課題として日本仏教研究者し東南アジア仏教研究者の協業による研究を構想した。

比較においては、政治・権力と宗教、宗教と地域社会との関わりという視点を重視し、文献に基づく歴史的な変遷の実証とフィールド調査との融合を目指す。研究組織を、各地域に精通した歴史学・民俗学・文化人類学・社会学の研究者により構成し、分野を超えた学際的なメンバーでこれまでにない斬新な比較研究を推進することを目標とした。

４．研究成果

［日本仏教と東南アジア仏教の比較の可能性］

日本の宗教民俗文化の基層形成においては、

◇古代・中世の権門寺院の顕教・密教に基づく寺社の宗教が日本の神祇信仰と結びついて大きな役割を果たし、現在の村落社会の共同体組織の原型となり、地域レベルで継承されている

◇日本各地の宗教民俗文化の近似性は、この中世に形成された寺社の世界観が地域レベルで浸透した結果であること

を指摘できる。

民俗学、文化人類学、宗教学、歴史学の各方面から、歴史資料と地域調査による事例研究より、

学際的な再検討を行い、この仮説が現在の日本の宗教民俗文化を理解する上での、その後の日本の町村における、寺院と神社とが結びついて社会統治の核となる枠組みとなった、という結論に至った。

本申請課題では、この国家統治と密接に結びついた仏教的な宗教的世界を、東南アジアを中心とするアジアの仏教文化圏の特質を解明するための参照点（reference point）として、仏教の受容後いかなる歴史的変遷を経て、現代に至っているのかを解明することを第一の目的とした。その具体的な研究を通じて、仏教をはじめとする宗教・信仰を利用、あるいは宗教を介在させた国家－地域の関係性や構造を解明する指標として、この参照点（reference point）が、より広い理論的汎用性をもつ点をも検証した。この「参照点」とは、社会経済学における考え方から始まる分析視点で、これを国家・地域という現実世界における宗教・信仰の研究に応用するものである（図１）。

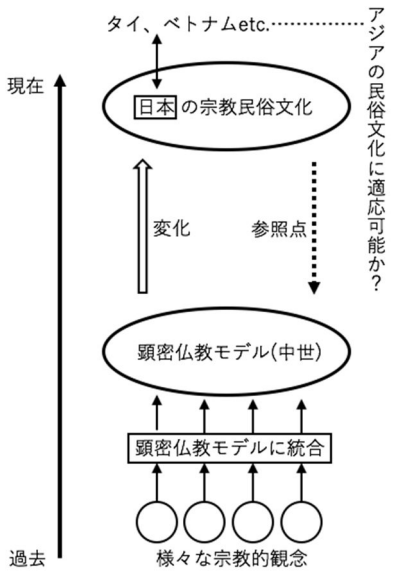

図１

日本の宗教研究に基づいた、これを参照点とする研究の斬新性は、従来の地域レベルの研究においては、古代に伝来した仏教は、千年を超える長期間に大きな改編を経ていることより、地域差や、地域性の解明に関心の中心が置かれることとなり、その結果、広い視点からの社会統治システムのモデルとしての宗教といった発想自体が従来、自覚されてこなかった。

〔仏教と国家、地域統治〕

日本史上の仏教の劇的な再編としては、近世期、江戸幕府による檀家-檀那関係の構築「寺請制度」を指摘できるが、その後の現在に仏教を存続させる原動力となった点でも重要な宗教・社会的エポックとなった。本制度は、キリスト教布教を手段の一つとするポルトガル・スペイン等のカトリック国の日本列島・中国大陸侵略の企図を背景とする、そのヨーロッパの企ての対抗策として江戸幕府が、キリスト教を禁制として日本の総国民を仏教徒とすることにより国民の掌握を行い、オランダを除くヨーロッパと断交する鎖国政策の一環として実施されたものである。

現代に続く地域や家庭レベルの葬式、盆や法事等、先祖祭祀の仏教は、近世に日本が置かれたこうした世界史的な動向、国際情勢と関わって形成され、現在まで継承されてきた。反キリスト教のための、寺院を檀家として所属する宗教要的な社会制度が、日本仏教を地域単位で結合させる原動力となったことを再認識したことは、本課題の重要な成果の一つである。。

〔国家祭祀としての放生儀礼と民俗的展開〕

殺生戒の思想に基づく、鳥獣、魚類の放生行事は、日本では、古代、漢訳仏教の伝来とともに行われた。

日本における放生思想に基づく儀礼の初見は『日本書紀』天武五年（677）条で、天皇の勅により、全国に放生を行うべき詔が発せられた。王の仁徳を示すことが、直接の目的であるが、仏と同体である転輪聖王として、国家統治を表象する儀礼として実施されたのである。

放生会が注目されるのは、ベトナムやタイなど東南アジアでは、民間宗教者的な商人が、寺・廟の前や路頭、市場等で、往来の人から金員を得て鳥籠より鳥を放す民俗が見られ、日本仏教との比較により、それぞれの仏教の受容のあり方の検討の上で、大きな成果が期待されるからである。

日本の放生において注目されるのは、国内の反乱や、外国からの侵略における戦闘により敵兵を殺害することになるが、勝利、平定後に、殺害した死者の鎮魂を目的として、放生儀礼が行われたことである。

大隅・日向地域の隼人の叛乱の平定後の、宇佐八幡宮おける放生儀礼や、新羅の襲撃に対する報復として行われた神功皇后の三韓征伐後、朝鮮半島への遠征の拠点となった対馬八幡宮での放生儀礼がそれである。

仏教の教義に基づく放生儀礼においては、魚・鳥や亀が多い。上述の東南アジアの例も、こうした民俗の伝承といえる。

一方、宇佐八幡宮や対馬八幡宮では海の巻貝が放生される。この巻貝は、宇佐八幡宮では、戦死した隼人の死霊、対馬八幡宮では、討ち取られた新羅兵の死霊として認識され、戦勝後も、敵兵であっても供養することが必要と認識され、継承されているのである。

東南アジアでの民俗的な伝承に対して、日本では国内・対外的な国家危機と放生儀礼が行われ、民俗として伝承されている点、重要な相違点として指摘できる。

〔東南アジアの華人社会統合を推進する祖先祭祀“中元普度（盂蘭盆会）”〕

日本仏教との比較のための東南アジア仏教の研究としてタイ・チャンタブリの福田寺、及び、マレーシア・ペナンの多くの街区を単位として伝承されている中元普度会の調査を実施した。

代表（松尾）が、2010 年代に実施した香港の中元普度では、「平安米」等と称する約 5kg の米が行事の終結において参拝者各人に配られるが、チャンタブリ福田寺の中元普度も同様で、地域の華人の生活を支援する社会経済的な性格が見られた。

国家における華僑の人口比の高いマレーシアであるが（華人の割合は 20%超）、ペナンは、広東・福建出身の華僑を二大勢力とする。ペナンにおいては、街区を単位とする中元普度が行われるが、注目されるのは、その街区が連合する「ペナン中元連合会」が 1970 年代より結成されて、ペナンの華人のための学校教育・高齢者福祉などの社会活動を実施していることである。

盂蘭盆会として、起源を日本と同じくしながら、中国や東南アジアの華僑社会の普度会が大きく異なるのは、餓鬼の王である餓鬼王（口から焔を吐くことより「面燃大士」とも呼ばれる）の祭祀が重視されることである。

ペナンにおいては、中元連合会は、結成の約 10 年後、1980 年代に会館を設立するが、会館には「観音　大仕（ママ）爺」の祭壇が設けられている。「大仕爺」とは面燃大士、観音は、餓鬼王である面燃大士を救済する菩薩であり、中元普度という宗教・信仰活動ではない、社会活動を主目的とする施設にも神霊が祀られている点、注目される。日本においても、盂蘭盆は、正月とともに家族・親族が集い、先祖をともに供養する重要な機会であるが、ペナンにおける中元普度は、家族・親族を超えた、華人の社会連合結成の紐帯としての役割を果たしている。日本の家族・親族による先祖祭祀の単なる拡大版ではない、広域内の華人が連合して、教育・福祉等の社会活動の連合体へと発展したものといえる。

イスラム教を国教とするマレーシアにあって、人口比 20%超の華人の連合体は、社会活動を超えて政治的な側面、性格をも少なからず有することと推察され、今後の彼らの動向が注視される。

〔今後の課題:北東アジア、遊牧民地域とチベット仏教との比較研究の可能性〕

本課題は、研究代表者松尾の所属する国立歴史民俗博物館の「東アジア・東南アジアの宗教・信仰の交流、歴史と伝承」プロジェクト研究（代表・松尾）との連携による研究をも推進した。その一環として、ゲストスピーカーとして蒙古貞夫氏（学芸大学研究員）の内蒙古東部地域における農耕・牧畜のための祈願についての発表が行われた。

内蒙古は、大乗仏教圏のチベット仏教のラマ僧による布教が行われてきた地域で、戒律が重視されるとともに六道輪廻の信仰が濃厚である。しかしながら、寒冷地帯における遊牧・農耕の生活は、伝統的に稲作のウェイトの大きい日本や東南アジアと異なる。しかしながら、民間レベルでの仏教と民俗神との混淆といった点で日本との共通性も認められる。遊牧地域においては、動物の屠殺の際の動物霊の転生を願う祈りに六道輪廻の思想の影響が認められることが明らかにされた。

戒律のなかでも動物・魚類等の殺生を禁ずる殺生戒の実践について、日本社会と東南アジア社会との差異に注目しての討議を行った。古代の日本では、国土を統治する天皇が菩薩の資格を有する転輪聖王として殺生を禁ずる発令をしたが、その発令の及ぶ地域が統治を内外に示す意義を有した。一方、香港の道教による水陸儀礼や東南アジアの寺院での死者霊を済度する普度儀礼において放生が行われる例が少なからず見られる。ベトナム・タイ・マレーシア等では、前述したように寺院周辺において鳥籠より鳥を放して金員を得る民間宗教者が存在する。仏教の民間への普及における、寺院・僧侶以外の私的な宗教者の活動について、日本仏教の場合との比較検討の必要性が今後の課題として認識された。

香港においては、民国時代、不作時に、普度会において困窮者に米や生活物資の配給を行うなど、地域住人への救済活動が行われた。これに対して、民国政府は、宗教行事の一環としての困窮者支援を禁じたが、貧困救済のような社会事業は、国家や行政が行うべき事業であり、宗教団体が行うことにより、反政府的な活動へと発展することを危惧したことと推測されるる。

国家と宗教、宗教団体や組織の活動のあり方は、日本と東アジア・東南アジアにおける仏教にとどまらず、ヨーロッパとキリスト教、中東や東南アジアとイスラム教など、幅広い歴史と伝承、現況の比較研究により、汎人類的な文化・文明への研究へと展開できる可能性を有するものといえる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　16件／うち国際共著　6件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 松尾 恒一	４．巻 29号
２．論文標題 日本における放生思想、儀礼の受容と展開―対馬八幡宮の放生儀礼と神楽を中心に―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『年刊　藝能』	６．最初と最後の頁 pp 109-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松尾 恒一	４．巻 11号（通巻第51号）
２．論文標題 中近世、対馬と朝鮮との交流と航海安全祈願	５．発行年 2023年
３．雑誌名 儀礼文化学会編『儀礼文化学会紀要』	６．最初と最後の頁 pp 57-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松尾 恒一	４．巻 11号（通巻第51号）
２．論文標題 日本の二十四節気－自然の中の暮らしの中で育まれた生活文化－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 儀礼文化学会編『儀礼文化学会紀要』	６．最初と最後の頁 pp 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松尾 恒一	４．巻 21輯
２．論文標題 日本への仏教伝来と護国の仏教―王権と儀礼―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 四川大学編・発行『中国俗文化研究』	６．最初と最後の頁 pp 120-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 91号
2．論文標題 中世後期、カトリック布教における治病;長崎における宣教師の祭儀、呪法、療養院経営を中心に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 上智大学『カトリック研究』	6．最初と最後の頁 pp.111-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中西裕二	4．巻 51
2．論文標題 「書評・新刊書紹介 吉田一彦編『神仏融合の東アジア史』」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『東南アジア―歴史と文化』	6．最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 第9・10号（通巻第50号）
2．論文標題 「餓鬼・孤魂―祀り手のない死霊―と疫病」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儀礼文化学会編『儀礼文化学会紀要』	6．最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一・中村和正	4．巻 第9・10号（通巻第50号）
2．論文標題 「調査報告：長崎市外海、かくれキリシタン伝承地域の山の神」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 儀礼文化学会編『儀礼文化学会紀要』	6．最初と最後の頁 179-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 28号
2．論文標題 「長崎外海地域におけるスペイン托鉢修道会系の布教の伝承―『ドソンのオラショ』『天地始之事』に注目して―」（28号，pp．（要確）， 3．雑誌名 藝能学会、年刊『藝能』	5．発行年 2022年 6．最初と最後の頁 207-222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 28号
2．論文標題 「戦う翁、祟る翁〈新羅明神〉―園城寺と異国の護法神―」 3．雑誌名 藝能学会、年刊『藝能』	5．発行年 2022年 6．最初と最後の頁 106-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 第4輯
2．論文標題 「民具的研究と展示」 3．雑誌名 周永明・王暁葵編、中国南方科技大学社会科学高等研究院『遺産』	5．発行年 2021年 6．最初と最後の頁 127-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 4号
2．論文標題 「民俗信仰と疫病の深いつながり　死霊と疫病の長い関係」（、文学通信、pp.26-32、2021年10月） 3．雑誌名 国立歴史民俗博物館・福岡万里子編『REKIHAKU 歴博』	5．発行年 2021年 6．最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾　恒一	4．巻 211号
2．論文標題 「堂童子と花造りの家―花会式を支える人々―」、pp.、2022年3月）	5．発行年 2022年
3．雑誌名 法相宗大本山薬師寺編・発行『薬師寺』	6．最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾　恒一	4．巻 865号
2．論文標題 「疫病にまつはる信仰と祭礼：京都祇園祭―御霊信仰と夏祭りの始まり―」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 神社本庁『月刊 若木』	6．最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 片岡　樹	4．巻 10
2．論文標題 「国民国家時代のメダン・ペナン・プーケット・コネクション―華僑華人移民と東南アジア現代政治―」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 マレーシア研究	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tatsuki Kataoka（片岡　樹）	4．巻 22-1
2．論文標題 Less than Gods?: Gods and Yokai in the Ushioni of Kikuma, Ehime Prefecture	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6．最初と最後の頁 177-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾　恒一	4．巻 9月
2．論文標題 「日本の二十四節気－自然の中の暮らしの中で育まれた生活文化」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 中国農業博物館編『二十四節気国際学術研討会論文集』新華書店北京発行所	6．最初と最後の頁 188-203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾　恒一	4．巻 9月
2．論文標題 （中国語）「日本的二十四節気－自然生活中孕育的生活文化」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 中国農業博物館編『二十四節気国際学術研討会論文集』新華書店北京発行所	6．最初と最後の頁 204-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 2月
2．論文標題 神楽「八岐大蛇」を考える－アジア・ヨーロッパの龍と大蛇の信仰	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『さくらぴあ平和の舞＜神楽の学校＞特別公演」』ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト	6．最初と最後の頁 7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一	4．巻 12月
2．論文標題 稲作・狩猟の祈願・祈祷としての神楽	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『九州の神楽 シンポジウム2020』宮崎県	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松尾 恒一・阮将軍	4．巻 第 17 期5号
2．論文標題 民具的研究与展示	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中国民芸文芸家協会編『民藝 Folk Art』《民藝》雑志社ISSN：2096-5257	6．最初と最後の頁 79-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 片岡樹	4．巻 13 号
2．論文標題 祟る中世―愛媛県菊間町の戦国落城伝説―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『現代民俗学研究』	6．最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 王探（手偏→王偏）發・松尾 恒一	4．巻 第216号
2．論文標題 戦前・戦中の、マレー半島進出と日本仏教－ゆがめられた真如親王の事跡	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歴博、特集 松尾恒一編「異郷でくらす日本人」	6．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 松尾恒一・原山浩介・秋山かおり	4．巻 vol.22
2．論文標題 鼎談 ハワイの日系人と太平洋戦争	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『歴史研究の最前線』「ハワイの日系人と太平洋戦争-追放・排除と包摂」	6．最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 松尾恒一	4．巻 Vol. 3
2．論文標題 祈る神と鎮める神―東アジアの宗教と民俗神―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 HERITEX、名古屋大学編	6．最初と最後の頁 52-71,455
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 松尾恒一・王探（手偏→王偏）發	4．巻 第７・８号（通巻第49号）
2．論文標題 戦前・戦中の、日本のマレー半島進出と日本仏教―半島の日本人の生活と真如親王の事跡	5．発行年 2020年
3．雑誌名 儀礼文化紀要（儀礼文化学会編）	6．最初と最後の頁 163-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 松尾恒一単	4．巻 Vol.43、No.1
2．論文標題 日本民俗中的佛教儀礼与芸能（梁青中国語訳）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中国『長江大学学報（社会科学版）』	6．最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計35件（うち招待講演　31件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 松尾恒一
2．発表標題 明清代の海上勢力と東南アジア・東アジアの華僑―ヨーロッパのアジア進出を視野に入れて―
3．学会等名 南師範大学歴史地理学院・2022年度国際学術会議「東南アジア各国の華人華僑」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 中世、対馬の神楽―朝鮮半島との交流・戦闘を視野に入れて―
３．学会等名 芸能史研究会・例会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 中国起源の日本の伝統芸道―香道と自然の保全活動を中心に―
３．学会等名 湖南工業大学・国際学術会議「人類におけるデザインの過去・現在、未来」」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 ノロとユタ―琉球地域の女性宗教者―
３．学会等名 柳田国男と女性民俗学ー妹の力論の再検討シンポジウム（永池健二代表）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 東南アジアで再発見する四国―地域社会の宗教と政治を逆さ読みする―
３．学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会（於明治大学）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡樹(Tatsuki Kataoka)
２．発表標題 “Wild Tea and the Cold War: the Transformation of Population Structure in the Highland Community of Thailand.”
３．学会等名 ” Paper presented at the AAWH Fifth Conference (online),（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 タイ国の中国系土地神－その中間報告－
３．学会等名 東南アジア学会第104 回研究大会（於東京外国語大学）（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 「自国の民俗をいかに展示するか－国立歴史民俗博物館における民俗展示」
３．学会等名 台湾国立雲林科技大学“雲林県地方文化館館長年会暨専題講座”、台湾国立雲林科技大学（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 「日本への仏教伝来と護国の仏教―王権と儀礼―」
３．学会等名 四川大学国際シンポジウム「東アジア漢文献と文化交流国際学術会議研討会）」、四川大学（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 「社会と宗教：一年の生活、一生の生活を支える諸宗教」
３．学会等名 儀礼文化学会【諸宗教】（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 「中国仏教の日本への伝来―護国仏教の儀礼と国土統治」
３．学会等名 太史閣（広島大学荒見泰史教授代表）名家講演、広島大学（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 「日本-台湾-大陸の交流と文化の伝承ー大航海時代 グローバリゼーションの始まりー」
３．学会等名 太史閣（広島大学荒見泰史教授代表）名家講演、広島大学（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 「能は神楽か、世阿弥の言説をめぐって―巫女より男性宗教者の神楽へ―」
３．学会等名 藝能学会大会、二松学舎大学（東京）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾 恒一
２．発表標題 シンポジウム （パネリスト）「長崎外海地域のかくれキリシタン―中近世、日・中・欧の交流の歴史と伝承」
３．学会等名 永池健二主催「柳田国男と女性民俗学―“ 妹の力 ” 論の再検討―: 生活と信仰の狭間に立つ女性―妹の力の新しい地平を求めて―」シンポジウム第４回、東京練馬区（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 片岡　樹
２．発表標題 東南アジアのイスラーム書にみる「天国と地獄」:コメント
３．学会等名 東南アジア学会第103回研究大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 国家儀礼としての放生会・殺生禁断
３．学会等名 科研「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究―政治と権力の視点を中心として」（代表：松尾恒一）研究会、京都大学（online）、2021年3月14日（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 神楽「八岐大蛇」を考える―アジア・ヨーロッパの龍と大蛇の信仰
３．学会等名 ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト主催：『さくらぴあ平和の舞＜神楽の学校＞特別公演」』、2021年2月13日、廿日市市（ウッドワン）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 津浪神楽団と「塵輪」
３．学会等名 ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト、共催：廿日市市教育委員会「さくらぴあ平和の舞＜神楽の学校＞特別公演」）、2021年1月11日（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 神楽の始まりと比婆荒神神楽
３．学会等名 ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト、廿日市市教育委員会「さくらぴあ平和の舞＜神楽の学校＞特別公演」、2020年12月6日（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 神楽はどのようにして男性宗教者による仮面の祈祷・芸能になったか―古代仏教儀礼の中世的展開としての神楽の可能性を考える―
３．学会等名 科研「神楽の中世的展開とその変容」（19K00092、代表：斎藤英喜）研究会、2020年11月8日）（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 単独（招待）「日本的二十四節気－自然中孕育的生活・信仰・芸術－」（「日本の二十四節気－自然の中の暮らしの中で育まれた生活・信仰・芸術－」）、
３．学会等名 中国農業博物館主催、中国非物質文化遺産保護中心・中国民俗学会・中国農業歴史学会共催『二十四節気国際学術研討会』（北京）、2020年9月22日（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 孤魂と面然祭祀の歴史的展開;宗教儀礼の伝播と面然像の変化に注目して
３．学会等名 科研「9、10世紀敦煌仏教、道教、民間信仰融合資料の総合的研究」（代表：広島大学荒見泰史教授代表）、国際研究集会”敦煌と東アジアの信仰”、大阪大谷大学ハルカスキャンパス、2020年8月1日（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 片岡 樹
２．発表標題 祟る中世―愛媛県菊間町の戦国落城伝説―
３．学会等名 日本文化人類学会第54 回研究大会（2020.5.30-31オンライン開催）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 片岡 樹
２．発表標題 文化人類学教育の現場で考える日本文化―国外フィールドから見た 『逆さ読み』の日本文化論―
３．学会等名 韓国日本文化學會第58回國際學術大會招請講演 （2020.9.26於韓南大學校）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 片岡 樹
２．発表標題 愛媛県菊間町の祭礼における牛鬼、妖怪譚としての牛鬼起源伝承
３．学会等名 科研「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究―政治と権力の視点を中心として」（代表：松尾恒一）研究会、京都大学（online）、2021年3月14日（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 上島享
２．発表標題 古代・中世日本における孔雀明王法
３．学会等名 科研「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究―政治と権力の視点を中心として」（代表：松尾恒一）研究会、京都大学（online）、2021年3月14日（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中西 裕二
２．発表標題 第六天魔王の民俗の考察
３．学会等名 科研「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究―政治と権力の視点を中心として」（代表：松尾恒一）研究会、京都大学（online）、2021年3月14日（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 中近世における中国・ヨーロッパとの交易 ―日本を仏教国にしたヨーロッパのキリスト教―
３．学会等名 くびき野カレッジ天地びと（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 大嘗祭:民俗文化としての天皇の代替わり儀礼
３．学会等名 くびき野カレッジ天地びと（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 大嘗祭－食・衣・住の祈願の皇室祭祀と伝承－
３．学会等名 歴博友の会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松尾恒一
２．発表標題 大嘗祭－食・衣・住の祈願の皇室祭祀と伝承－
３．学会等名 儀礼文化学会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 東南アジア研究者が見た日本宗教
３．学会等名 現代民俗学会　年次大会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka （片岡樹）
２．発表標題 The Worship of Guardians of the Locality among Diaspora Chinese in Southeast Asia
３．学会等名 paper presented at the 11th ICAS (International Convention of Asia Scholars) Conference (at Leiden University)（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 片岡樹
２．発表標題 タイ国の大乗仏教教団
３．学会等名 東南アジア学会第101回研究大会（2019.11.23-24於静岡県立大学）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tatsuki Kataoka （片岡樹）
２．発表標題 Thai Religious System as Viewed from the Kenmitsu (Exoteric-Esoteric Buddhism) Theory of Japanese Religion: A Preliminary Study
３．学会等名 Paper presented at the SEASIA 2019 Conference (at Academic Sinica), December 5-7,
４．発表年 2019年

〔図書〕　計22件

１．著者名 松尾恒一	４．発行年 2023年
２．出版社 法蔵館	５．総ページ数 280
３．書名 斎藤英喜編『歴史と地域のなかの神楽』所収、松尾恒一「中世、対馬の八幡信仰、放生会と神楽―国難克服祈願としての祭儀と芸能―」	

１．著者名 上島享「草創期の京都帝国大学国史学の特質　―時期区分論と世界史―」	４．発行年 2022年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 608
３．書名 小澤実・佐藤雄基編『史学科の比較史―歴史学の制度化と近代日本―』勉誠出版、2022年5月	

1．著者名 松尾 恒一・福田晃・山本ひろ子	4．発行年 2021年
2．出版社 三弥井書店	5．総ページ数 392
3．書名 編著『神楽の中世―宗教芸能の地平へ―』	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2022年
2．出版社 三弥井書店	5．総ページ数 392
3．書名 松尾恒一・福田晃・山本ひろ子編『神楽の中世―宗教芸能の地平へ―』、松尾恒一「仮面の呪術、祭祀、芸能としての神楽の生成―東アジアの視角より中世の神楽を考える」	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2022年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 544
3．書名 近本謙介編、名古屋大学人文学研究科人類文化遺産テクスト学研究センター叢書『ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ―』、松尾恒一「鎮護国家の仏教と列島の景観―仏法・王法相依の儀礼と地域統治」	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2021年
2．出版社 中国四川大学	5．総ページ数 640
3．書名 四川大学中国俗文化研究所『東亜漢文献与文化交流国際学術会議研討会（東アジア漢文献と文化交流国際学術会議研討会） 会議論文集』、松尾恒一「日本への仏教伝来と護国の仏教―王権と儀礼―」	

１．著者名 中西 嘉宏　片岡 樹	４．発行年 2022年
２．出版社 京都大学東南アジア研究所	５．総ページ数 107
３．書名 初学者のための東南アジア研究	

１．著者名 松尾恒一	４．発行年 2022年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 514
３．書名 近本謙介編、名古屋大学人文学研究科人類文化遺産テクスト学研究センター叢書『ことば・ほとけ・図像の交響―法会・儀礼とアーカイヴ―』、松尾恒一「鎮護国家の仏教と列島の景観―仏法・王法相依の儀礼と地域統治」	

１．著者名 松尾 恒一	４．発行年 2021年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 448
３．書名 染谷友幸編『東アジア文化講座1 はじめに交流ありき「東アジアの文学と異文化交流」』、「南シナ海の海盗―張保仔と女海賊鄭一嫂」	

１．著者名 松尾 恒一	４．発行年 2021年
２．出版社 文学通信	５．総ページ数 432
３．書名 ハルオ・シラネ編『東アジア文化講座４　東アジアの自然観「東アジアの環境と風俗」』、「年迎えと祖霊祭祀―古代からの伝承、歴史と現代」	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2021年
2．出版社 名古屋大学出版会	5．総ページ数 726
3．書名 吉田一彦編『神仏融合の東アジア』、「媽祖・観音・マリア、 近世長崎における清国海商とかくれキリシタン―」	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2020年
2．出版社 吉川弘文館	5．総ページ数 326
3．書名 吉田一彦・上島享編『日本宗教史1　日本宗教史を問い直す』、「民俗から問い直す日本の宗教・信仰 世界のなかの日本、日本のなかの世界」	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2020年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 256
3．書名 荒見泰史編「仏教の東漸と西漸」『アジア遊学』251号、「明代、南シナ海の海盗の活動と記憶―日本・中国大陸・東南アジアの宗教史跡をめぐって」	

1．著者名 松尾 恒一	4．発行年 2020年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 256
3．書名 荒見泰史編「仏教の東漸と西漸」『アジア遊学』251号、「清代前期、媽祖信仰・祭祀の日本伝播とその伝承―ヨーロッパの東アジア進出を視野に入れて」	

１．著者名 上島 享	４．発行年 2020年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 181
３．書名 菅野成寛編『平泉の文化史２　平泉の仏教史』、「平泉の寺院と法会」	

１．著者名 上島 享	４．発行年 2020年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 326
３．書名 吉田一彦・上島享編『日本宗教史1　日本宗教史を問い直す』、「民俗から問い直す日本の宗教・信仰 世界のなかの日本、日本のなかの世界」	

１．著者名 上島 享	４．発行年 2021年
２．出版社 名古屋大学出版会	５．総ページ数 726
３．書名 吉田一彦編『神仏融合の東アジア』、「中世の神と仏 」	

１．著者名 松尾恒一	４．発行年 2019年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 288
３．書名 日本の民俗宗教	

1．著者名 片岡樹	4．発行年 2019年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 348
3．書名 杉島敬志編『コミュニケーション的存在論の人類学』「何をしたら宗教を『真剣にとりあげた』ことになるのか？―調律と複ゲームのフィールドワーク論―」	

1．著者名 片岡樹	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 324
3．書名 瀬戸裕之、河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略―避難民・女性・少数民族・投降者からの視点―』　「山茶が動かす冷戦史―冷戦期タイ国北部山地における人口構成の変遷―」	

1．著者名 片岡樹	4．発行年 2020年
2．出版社 北樹出版	5．総ページ数 227
3．書名 岩野邦康・田所聖志・稲澤努・小林宏至編『ダメになる人類学』　「識字文化の諸相―本は読まないとダメですか？―」	

1．著者名 上島享	4．発行年 2020年
2．出版社 法蔵館	5．総ページ数 392
3．書名 道元徹心編『日本仏教の展開とその造形』法蔵館、pp235-271「密教修法の構成・特質と中世寺院社会―孔雀経法を通して―」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

・松尾恒一「〈鳥船〉―明清代の唐船と琉球船―」（『儀礼文化学会紀要』、12号（通巻52号）、pp 3-20、2024年3月、(査読有)、ISSN21882339）、
・松尾恒一「大和国の統治の表象としての春日若宮おん祭―大和士・児の奉仕に注目して」（藝能学会編『年刊　藝能』30号、pp 6-22、2024年3月）（査読有）：ISSN ナシ
・松尾恒一「中世、対馬の府内八幡宮の放生儀礼と神楽―朝鮮半島との交流に注目して―」（神奈川大学『比較民俗研究』38号、pp 30-51、2024年3月、(査読ナシ)、ISSN 0915-7468）。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	片岡　樹 (Kataoka Tatsuki) (10513517)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	
研究分担者	中西　裕二 (Nakanishi Yuji) (50237327)	日本女子大学・人間社会学部・教授 (32670)	
研究分担者	上島　享 (Uejima Susumu) (60285244)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関